

彩の国 企業探訪

エルトラック 株式会社 ERUTLUC

幼児から大人まで幅広い年代に向け、「なりうる最高の自分を目指そう」をテーマに「バスケットボールの家庭教師」事業を展開している株式会社ERUTLUC。創業当時は出張指導というスタイルでスタートし、現在ではスクールや合宿、大会等を首都圏各地で運営するほか、コーチの育成・指導にも注力している。創業20周年の節目を迎えた昨年は、念願だった自社専用体育館「ERUTLUC CENTER」(埼玉県三芳町)をオープンさせ、サービスを拡充。連日、経験豊富なコーチ陣がさらなるバスケットボールの普及・振興に向け取り組みんでいる。

子どもたちのスポーツ文化を変えていきたい

ERUTLUCの鈴木良和代表は、2016年からJBA(日本バスケットボール協会)の指導者養成委員会やユース育成部会のメンバーとしても活動し、U12、U13 ナショナルキャンプのヘッドコーチを経て、2019年には男子日本代表のサポートコーチ、現在は女子日本代表チームのアシスタントコーチを務めている。学生時代からバスケットボールに打ち込んできた鈴木代表は、恩師のコーチングに感銘を受けたことを機に、自分でも「より多くの子どもたちのために優れた指導者を育てたい」との想いが強まり、



昨年オープンした「ERUTLUC CENTER」

大学の教育学部から大学教授になる道を志すこととなった。大学院へ進学すると、学費をアルバイトで稼ぐため、勉強を教える家庭教師のホームページを自分で作成し生徒を募集。そこである時、「家庭教師でバスケットを指導することもできるのではないか」と思いついたことが、創業のきっかけとなった。

在学中の2002年より、「バスケットボールの家庭教師」として活動をスタートすると、徐々に教える子どもたちも増えていったことから、コーチも増員し、出張指導だけでなくバスケットスクールも手掛けるようになり、2004年には初めて宿泊形式の「サマーキャンプ」も開催した。鈴木代表自身もスペインやイタリア、ドイツなど海外でのツアー研修に参加しながらスキルアップに努め、事業規模の拡大にともない、創業5年目となる2007年、株式会社ERUTLUCの設立に至った。文化を意味する「CULTURE」を逆から読んでこの商号には、日本の子どもたちを取り巻くスポーツ文化をより良くしていきたいという思いが込められている。翌2008年には、部活動に偏り過ぎている日本のジュニア育成環境を変えようと、中学生を対象としたクラブチーム「Hoops4Hoop」を千葉で結成している。

自立した選手を育てる指導に注力

かつて鈴木代表がイタリアでのコーチング研修に参加した際、イタリア人コーチとのディスカッションの際、一緒に参加していた日本人コーチたちから、「どうしてイタリアでは、まだ子どもたちができるようになっていないうちから次々と練習メニューを変えていくの?」「きちんとできるように教えてあげた方がいいのでは?」という意見があがった。するとイタリア人コーチは、「指導者の仕事はいったい何でしょう?」と逆に問いかけ、「育成における私たちの仕事は、課題を解決してあげることではない。選手に適した課題を与えていくのが仕事だ。」と続けた。参加していた日本人コーチたちは皆、指導者の役割は「選手の課題を解決してあげること」と考えていたが、イタリアでは育成に対する考え方の根本がまったく違うことに驚き、この体験がその後の指導に大きな転機となったという。

鈴木代表は「日本では、コーチ経験が増えていくほど、できない子をできるようにしてあげることが上手くなり、結果として選手は課題を解決してもらうことに慣れていきます。一方、イタリアなどの欧州では、コーチは経験を積むほど課題の与え方がうまくなっていき、結果として子どもたちは課題を解決する力が養われていきます。こうした育成における考え方の差が、その後の選手の成長に影響し、世界との大きな差につながっています。」と説明する。バスケットボールという競技は互いに用意した戦術を邪魔し合い、壊し合う闘争型のチームスポーツで、試合で戦術が壊されたとき、自ら状況を打開できるような選手が育っていかないと強くはなれないという。こうした考えのもと、ERUTLUCではコーチが選手に「考えるきっかけ」を提示し、スポーツを通して自立した人間を育てることに重点を置いた指導を徹底している。

充実した指導者育成プログラムを構築

指導の一貫性を図るため、ERUTLUCではコーチを育てるための「子どもの指導研究会」を2005年から開催し、コーチ全員がカリキュラムを受講しス



「ERUTLUC CENTER」1Fの休憩スペース

キルを高めている。当初は12カ月で全体像を学ぶ内容としていたが、現在では12カ月×4年分を全工程とし、毎年協議を重ねながら進化を続けている。「いいコーチになりたい」「コーチとして成長したい」といった志ある人しかコーチにはなれない仕組みとなっている。

2010年には海外事業部を立ち上げ、指導者向けのコーチングツアーや、海外からコーチを招いてノウハウを学ぶ「海外コーチ招聘クリニック」など、海外とのネットワークを強化して指導員環境づくりを進めている。さらに、2016年には指導者向け講習会「コーチングスクール」がスタートし、より専門性を高めた高度なスキル習得環境が整備されている。20年前と現在とでは子どもたちも変わってきており、例えば、練習や試合で子ども同士の感情がぶつかるような場面では、子どもたちがより繊細に、傷つきやすくなっていると感じるケースが増えたことから、コーチ陣もフォローや指導スタイルを進化させているという。

保護者も巻き込みながら選手をサポート

子どもたちのスポーツ環境をより良くするためには、保護者の支えが必要不可欠との考えから、ERUTLUCでは保護者に対しても、子どもたちを支える上で必要なさまざまなことについて学ぶ講習会「ペアレンツスクール」を提供している。外部からも講師を招き、バスケに最適な心理状態や価値観、栄養管理など、子どもたちへの関わり方について、さまざまな角度から保護者ととも一緒に考えている。



指導風景

『子どもがバスケを始めたら読む本』（2021年2月刊行）の監修なども手掛けている鈴木代表は、子どもがスポーツを通じて成長するために保護者がやってはいけないこととして、1. 決断の機会を奪わない、2. 失敗する前に助け過ぎない、3. “かわいそう”を履き違えない、の3点を挙げ、「過度に子どもたちの取り組みに介入せず、適切な距離でサポートすることが大切です。」と語る。

映像ツールを駆使し、課題解決力を養う

選手自らの課題解決力を向上させるため、ERUTLUCでは2018年よりSPLYZA（浜松市）が提供する試合映像分析ツール「SPLYZA Teams」を導入している。同サービスは、選手自らが試合中のプレーを映像で振り返り、課題に対して「どうやったら上手くなれるのか?」「どうすれば試合に勝てるか?」などを考えながら、自身の課題やチームの課題を分析できるため、バスケットボール以外の競技でも採用されている。

また、2018年よりLIFULL（東京都千代田区）が手掛けるさまざまなスポーツの練習動画サイト

スーパー「Sufu」では、バスケットボール部門の動画提供を担当しているほか、YouTubeやInstagramといったSNSでも、練習動画などの情報を積極的に発信している。鈴木代表は「デジタル化の進展とともに映像やITを活用したトレーニングはさまざまなスポーツで普及してきており、バスケにおいても今後こうした事例は増えていくのではないかと見ている。

選手の成長につながる大会運営

選手にとって試合とは日頃の練習の成果を試すハレの舞台であり、試合を通じて大きな成長が期待できるとの考えから、ERUTLUCではより多くの子どもたちに試合出場の機会を提供することを目指し、大会運営事業を手掛けている。実力が拮抗するよう、チームの年齢構成をU-12、U-14、U-16と3つのカテゴリーに分けたリーグ制で開催することで、負けたら即終了のトーナメント制ではないため、勝利至上主義になりにくく、より多くの選手に出場機会が巡ってきやすくなるという。

また、最近ではストリート発祥で、東京2020オリンピックでも正式種目として採用された3人制バスケット「3×3」の大会も運営している。5人制とは異なるスピーディな展開で、1人ひとりがボールを持つ時間も多くなり、コーチが帯同せず、メンバー同士が主体的にプレーできるという観点からも育成効果が期待できる。

鈴木代表は、「試合に勝つために上手い子だけを使ったり、指導者がプレーを強制的に指示したりといった勝利至上主義的なコーチングは育成につながりません。勝利にしか価値を見出せない指導者がまだまだ多いことが、ジュニア育成における大きな課題ではないかと思っています。」と指摘する。

次なる10年に向けた取り組み

昨年ERUTLUCは創業20周年となる節目の年を迎え、念願だった自社専用体育館「ERUTLUC CENTER」（埼玉県三芳町）をオープンした。創業から最初の10年間では、すでにバスケットボールを始めている子どもたちに向け、もっと上手くなりたいという声に応えるための環境づくりに取り組



み、昨年までの次の10年間では、まだスポーツをしていない子どもたちにスポーツの楽しさを届けるため、2013年には普及事業部を設立するなどさまざまな取り組みを強化してきた。鈴木代表は、「次の30周年に向けたこの先の10年では、バスケットボールという競技の枠を超え、いろいろなスポーツの現場と連携していくことに取り組んでいきます。スポーツの価値をもっと多くの子どもたちやその保護者の方々に知ってもらうため、現在はそれに向けた社内組織や財務基盤などの足場を固め直しているところです。」と力を込める。今年4月にはその一環として、いろいろな競技のボール運動を通じて走る・跳ぶ・投げるなどの運動能力を養う「SPボー

ルスクール」を立ち上げた。また、埼玉県バスケットボール協会（上尾市）とは今年3月に連携協定を締結し、指導者養成における地域スポーツ環境の充実に貢献する活動をスタートしており、引き続き子どもたちの育成と指導者の育成の両面で、子どもたちが最大限に成長できる環境の整備に取り組んでいく構えだ。

今月25日からは「FIBAバスケットボールワールドカップ2023」が開催される。今大会は史上初の日本（沖縄）、フィリピン、インドネシアによる3カ国共催となり、日本でも熱戦が期待されている。バスケットボール界全体のこうした盛り上がりも追い風に、ERUTLUCのさらなる挑戦が目される。

企業概要

株式会社 ERUTLUC

<https://www.basketballtutor.com/>

■代表取締役社長：鈴木 良和

本社所在地：埼玉県入間郡三芳町竹間沢東 6-5

創 業：2002（平成14）年

設 立：2007（平成19）年

従業員数：67名、ボランティアコーチ15名（2023年6月現在）

会 員 数：約1,700名

事業内容：「バスケットボールの家庭教師」事業



鈴木代表